

『地下型の巣箱』の取り扱い説明書

お礼

このたびは、『地下型の巣箱』をご注文いただきまして、ありがとうございます。また、『ハムスターの習性に合わせた飼育方法』(※1)にご関心をお持ちいただきましたことにお礼を申し上げます。

ここでは、『地下型の巣箱』をより効果的にご活用いただけるように、標準的な使用方法を説明させていただきます。

目次

1. <<『地下型の巣箱』について>>
2. 巣箱の中は<<侵入禁止>>です
3. <<『地下型の巣箱』の掃除>>
4. <<正しい飼育方法>>
5. <<『地下型の巣箱』の構造>>
6. <<『地下型の巣箱』の設置例>>
7. <<与えるタイミング>>は巣立ちのときが自然です
8. <<出産兼育児室>>
9. <<出産時の餌の量>>
10. <<観察=透明な観察板と遮光板>>
11. <<ハムスターのオシッコ>>
12. <<トイレ室>>と<<野外トイレ>>
13. 慣れるということは？
14. <<よくある質問のページです>>



1. ≪『地下型の巣箱』について≫



この『地下型の巣箱』は、ハムスターにとってなくてはならない【地下の生活環境】を提供するものです。自然界の地下の巣穴で生活しているのと同じようにハムスターが感じてリラックスするように、材質はもとより入り口の寸法や部屋の高さや構造などを最適になるように工夫して作ってあります。

『地下型の巣箱』で飼育すると、こんな良いことが起きます。

- ハムスターが元気になります。
- ハムスターが活発になります。
- ハムスターの性格が優しくなります。
- 飼育環境が清潔になります。
- そして、とても良く馴れる様になります。
- 巣の中で生活しているハムスターの様子をいつでも観察できるようになります。

【事前準備】前もってトイレ室を作っておけます。

ハムスターは巣穴の中の部屋の一つか二つをトイレ室に決めてそこにオシッコをします。ハムスターには巣穴の中、特に寝室を清潔に保つという優れた習性があります。『地下型の巣箱』を与えるときのトイレ室の決め方は、1. ハムスターに自由に決めさせる方法。2. あらかじめトイレ室を作っておく方法の二つの方法があります。ハムスターに決めさせる方法は後の≪**トイレ室**≫と≪**野外トイレ**≫の項で説明いたします。ここでは、あらかじめトイレ室を作っておく方法を説明いたします。



敷き箱を作った場合 ⇒



まず、『地下型の巣箱』の任意の一室をトイレ室に決めます。そこに今まで使用していたトイレの方法を設置します。例えば、今まで砂のトイレに慣れていたのであればその砂を使ってトイレ室を作ります。このとき、『地下型の巣箱』の環境を受け入れやすくする為に、ハムスター自身のオシッコの匂いのついたものをトイレ室に入れておきます。ハムスターの嗅覚は繊細です。自分の臭いで安心します。

なお、砂のトイレにする場合は、入り口が高くなっている部屋にすると、砂の飛び散り量を少なくすることができます。（入り口の高さを違えてあるのはこのためです）図のように、牛乳パックで内箱状にしておくと汚れ防止になりますし、トイレ室の床に、あらかじめ厚紙（牛乳パックの紙）などを敷くだけでも汚れ防止になります。直に砂を入れてもかまいません。このことは、ホームページの「ハムスターのトイレ」の項に詳しく述べておきました。

なお、トイレ室がなかなか決まらない場合は、メールあるいはホームページの BBS でご質問ください。

『地下型の巣箱』をもらったハムスターは次の4つの行動をします。

第1の行動 ⇒ 安全確認



第2の行動 ⇒ 寝室作り



第3の行動 ⇒ トイレ室を決める



第4の行動 ⇒ 食べ物を貯蔵し始める（貯蔵室を作る）

設置は、本文の≪『地下型の巣箱』の設置例≫のように設置します。

≪第1の行動 ⇒ 安全確認≫

ハムスターは早ければ数時間で、長いときは二日くらいかけて『地下型の巣箱』の中を探検したり検査をします。

《第2の行動 ⇒ 寝室作り》

中が安全であることを納得して、『自分の家』にしよう決めると、ハムスターの次の行動はとても素早いです。まず寝室作りをはじめます。（そのときのために、ハムスターが好みそうな巣の材料をあらかじめ『地下型の巣箱』の外に置いておきます）紙やティッシュを細く切ったもの・干草・枯葉・布切れ・毛糸・綿などの中から気に入った巣材を『地下型の巣箱』に運び込んで、ハムスターが自分で寝室を作ります。季節によって好みの巣材が変わる場合がありますので、色々な素材を選べるようにしてあげると楽しいです。どの部屋を寝室にするかはハムスターが自分で考えて決めます。

巣材を運び込み始めたら『地下型の巣箱』を『自分の家』と感じた証拠です。巣作りの上手下手にハムスターの個性が出てとても面白いです。この様子は『透明な観察板』で観察しておきましょう。観察は、ハムスターを理解するにも、健康チェックをするうえでもとても重要なことです。

《第3の行動 ⇒ トイレ室を決める》

トイレ室を決めたことが、『地下型の巣箱』を『自分の家と認識』する指標になります。

《第4の行動 ⇒ 食べ物を貯蔵し始める（貯蔵室を作る）》

『自分の家と認識』した証です。この状態でハムスターのストレスは軽減・消滅します。

この4つの行動が確認できれば、ハムスターが『地下型の巣箱』を『自分の家と認識した』証です。設置成功です。

もし、4つの行動が確認できなければ設置は失敗ですから、環境チェックが必要です。『環境からのストレス』『飼い主の侵入』など、例えば近くにハムスターの気配を感じているなど、。

2. 巣箱の中は《侵入禁止》です

←とても重要

『自分の家と認識し切れていない』原因に《飼い主の侵入》があります。この『地下型の巣箱』は、ハムスターが安心してのびのびと健康に生活できる環境を、ハムスター自身が作る構造になっていますので、**そのまま与えてください**。ただし、先に説明した通りトイレ室だけは例外です。

つまり、ハムスターの気持ちとしては『地下型の巣箱』の中には誰にも入ってほしくないのです。【聖域】が守られているからこそ『自分の家だと認識できる』のであって、

人が巣の中に何かを入れてあげるなどということは自然界では起こらないことであり、何かが入っているとしたら、それは誰か（=敵）が侵入した証拠であり、危険な巣穴と思い、警戒したり『地下型の巣箱』を嫌いになってしまうかもしれません、ハムスターが飼い主に完全に慣れるまでは、トイレの掃除以外は侵入しないようにしましょう。『地下型の巣箱』は飼い主といえども《侵入禁止》です。

3. ≪『地下型の巣箱』の掃除≫

2. の理由から、最初の約一週間は、トイレの掃除だけにして他の部屋、特に寝室にしている部屋は手をつけない方が無難です。

掃除はハムスターが『地下型の巣箱』から外に出ているときに行ってください。（厳守してください。出てこなければお掃除は中止です。）

≪掃除の手順≫

①まず、おやつなどで【地上の生活環境】に誘い出して、巣穴を閉じて、衣装ケース内にハムスターを確保します。

②次に、飼育ケースをそっと取り除いて、『透明な観察板』を開けて、すばやく『地下型の巣箱』を掃除します。

③そして、飼育ケースを戻して、巣穴を開けてあげます。

ハムスターは、遊びたけば衣装ケース内に留まりますが、いやなら巣穴に駆け込みます。ハムスターが中にいるときには『地下型の巣箱』を動かしたり、『透明な観察板』を開けることは『厳禁』です。中にいるときに危険を感じたり、侵入されたりすると、『巣穴は安全な場所ではない』と学習してしまい『地下型の巣箱』を使わなくなってしまう場合があります。ハムスターの警戒心理よりも掃除を優先すると、ハムスターとホントのお友達になれません。

このことは≪観察=透明な観察板と遮光板≫の項でも詳しく説明しています。

慣れるまでは、トイレの掃除と汚れたものを取り除くだけで、掃除は最小限にします。その後、ハムスターが皆さんにすっかり慣れたら、大掃除や『地下型の巣箱』全部を水洗いすることも可能です。

4. ≪正しい飼育方法≫

この『地下型の巣箱』は、自然の家に近い【地下の生活環境】で飼育してあげることが目的にしたものです。

今までに『ハムスターの家』とされてきたモノは、ハムスターがペットとして飼われ始めた半世紀ほど前に、どんな所に棲んでいて、どんな巣で生活しているのかなどの習性を全く知らなかった人たちが、『リスの巣』や『小鳥の巣箱』を代用品として与えたモノで、それがそのまま『ハムスターの家』となってしまう、当時の誤りが今日まで受け継がれているにすぎません。

ハムスターの生息場所は地下であること。地下に複数の部屋を作ってその複数の部屋を上手に使い分けて生活しているとても賢い動物であること。真っ暗な中で、嗅覚・触覚・聴覚など上手に使って何不自由なく暮らしている動物であることを、今は誰もが知っているというのにです。

ハムスターの習性を知らなかった時代の間違った飼育方法のために、安眠する自分の家が無いという飼育環境で一生を過ごさなければならないハムスターはかわいそうです。暗く静かな寝室で安心して眠ることが一生できないというストレスによって健康を害する場合もあるでしょう。人に噛み付いたり、ケージを齧り続ける奇行や、消化器系や皮膚の病気になるハムスターには、安眠することがで

きないストレスの蓄積が原因の場合もあるかもしれません。

『地下型の巣箱』を自分の家にもらったハムスターは、本来の巣作りの本能と習性を十分に発揮してまず寝室を作ります。そして、自分で作った寝室でリラックスして安眠します。安眠してのびのびと健康に育って、気持ちに余裕が出てきます。すると、持ち前の賢さと好奇心を発揮して、興味を飼い主に向けるようになり、観察し始めます。飼い主が敵ではないと納得すると、呼べば『地下型の巣箱』から出てくるくらいに、とても良く馴れます。ここから、ハムスターとの楽しいコミュニケーションが始まります。

5. ≪『地下型の巣箱』の構造≫



(a32 アガチス)

自然界のハムスターの家は、寝室・食糧貯蔵室・トイレ室などを備えて、それは人間の家の機能にとってもよく似ています。ハムスターは1日のうち約16時間から20時間をこの家の中で生活しています。ハムスターは家で眠っているだけではありません。食事をしたり、毛並みを整えたり、寝室を寝心地よく整えたり、ハムスターの家の生活は、人と同じです。このように、家はなくてはならない場所であり、安らぎ、リラックスし、健康を維持するためのとても大切な場所です。

『地下型の巣箱』の材質は、刺激の少ない『桐』または『アガチス』を使用しています。部屋数を5室として、しかも、部屋ごとに寸法を変えてあります。これはハムスターの使い分けの本能を刺激します。また、出入り口の穴の寸法もハムスターの好みの大きさにしてあります。

野生のハムスターが地下に作る家の機能を真似て、本能と習性を十分に発揮する構造にして、健康で快適に生活できる機能を持った構造にしてあります。

さらに、母ハムスターの出産準備から出産・育児・巣立ちまでの育児環境には、母ハムスターと子ハムスターの本能と習性が自然に発揮できるように十分に配慮した優れた構造を備えています。

そして、『透明な観察板』を備えているので、遮光している布などをそっとめくれば、巣の中の自然な姿・習性を、ハムスターを怖がらせることなく、いつでも自由に観察することができます。観察しないときは『透明な観察板』の上に入り口の穴を開けた布や厚紙などを敷いて、『地下型の巣箱』の中

を暗くしてあげてください。自然界の巣穴は真っ暗ですから。

6. ≪『地下型の巣箱』の設置例≫

ハムスター自身に『地下型の巣箱』を『自分の家』と認識させ、『安心』させることが【設置】の目的です。

『地下型の巣箱』の基本的な設置方法は以下の通りです。

1. ケージの下（外）に重ね置く方法【この方法が推奨です】
2. その他の方法

【1. ケージの下に重ね置く方法】【推奨です】



この方法は、『地下型の巣箱』の理想的な設置方法です。

ハムスターに必要な二つの生活環境である『地下の生活環境』と『地上の生活環境』を作ることができます。

ケージ・衣装ケースなどの底が地上の環境になります。底に穴を開けて『地下型の巣箱』の出入りと重ねます。

ハムスターにとっては、ケージの底にある穴が自分の家の入り口で、自然界の巣穴のイメージです。ケージの底つまり地下に自分の家ができます。

この方法の利点は、

- ① 自分が、家の中に居るのか、地上にいるのかが明確になり、ハムスターの本能を刺激します。習性に合わせた生活ができることによるストレスの解消・軽減の効果は、眼に見えて絶大です。
- ② 『地下型の巣箱』が外置きになるので夏の冷却、冬の保温などの温度・湿度の管理ができます。
- ③ 巣箱の外部が汚れません。
- ④ もともと狭いケージや衣装ケースの中から巣箱がなくなるので、【地上の生活環境】を広く使用できます。
- ⑤ ケージ・衣装ケースを持ち上げれば巣の中をいつでも観察でき、トイレの砂交換などが楽にできる。などです。

さらに、この飼育セットにはとても大きな効果があります。
飼育ケースの底に、巣穴の出入口があることです。



ハムスターにとって、このように、安全安心の巣穴がすぐ近くにあることによって、危険を感じたら、いつでもすばやく安全な巣穴に避難できる、という安心感をハムスターに持たせることができます。

ストレスのない飼育環境にいるハムスターは、とても健康に育ちます。
ハムスターのこの穴の使い方を観察することで、飼い主に対するハムスターの気持ちを、推し量ることができます。

- 飼い主を怖がっていれば ⇒ 巣の奥から出てきません。
- 飼い主に興味があれば ⇒ 出入口の内側で様子伺いをします。
- 飼い主に慣れて安心していれば ⇒ 出てきます。

衣装ケースやケージの底に穴を開ける方法は、リングソーなどの専用の道具を使用すればよいのですが、どの家にもあるアイロンの先で簡単に穴を開ける方法をホームページで紹介しておきました。

上の写真では『遮光板』の説明を省きましたが、『地下型の巣箱』の上に遮光のための布を敷いたのが下の写真です。

衣装ケースを取り除くことで『地下型の巣箱』の中を自由に観察することができます。

遮光板に布を使った例



このように観察します



【2. その他の方法】

放し飼い・サークルの中のハムスターの巣箱として使用。ケージの外に置いて『地下型の巣箱』を通路用パイプで連結して使用するなど。少し高度な管理ができる方にお薦めです。なお、飼育ケースの底に穴を開けられない方のための臨時的な方法として、ケージの中に置く方法も過去にご紹介しておりましたが、かえって管理が難しいので、ケージの下に重ね置く方法のみを推奨とさせていただきます。

7. 《与えるタイミング》は巣立ちのときが自然です

自然界では、子ハムスターは母ハムスターのもとを巣立って自分の家を作り始めます。家作りは、何も無い地面に穴を掘り始めるとは限らないようで、むしろ、古い穴などを自分好みに改修して自分の家にする場合が多いようです。

『地下型の巣箱』を与えるタイミングは、巣立ちのときが自然で一番良いようです。もともと、ハムスターは地下に作った複数の部屋を上手に使い分けて生活する習性と本能を持ったとても賢い動物ですから、大人のハムスターになってから『地下型の巣箱』を与えても、ハムスターは喜んで自分の家作りを始めます。巣作りは最初は下手ですが、馴れてくると上手に作るようになります。

8. 《出産兼育児室》

出産が近づいたら、柔らかめの材料（ティッシュを細く引き裂いたものでも良い）を『地下型の巣箱』の外に置いておきます。出産直前になると母ハムは、好みの材料を運び込んで清潔な産室兼育児室を自分で作ります。母ハムスターは大体一番奥の大部屋を育児室に選びます。大部屋はそのためのものです。

産まれた子ハムは動けるようになると自分でトイレに行きます。このとき部屋の出入り口が少し高いので厚紙などを敷いてバリアフリー化してあげるとよい場合があります。もっとも、子ハムが部屋になかなか戻らないと母ハムがくわえて連れ戻します。母ハムの育児は完璧ですので手出しは無用です。

地上（外）の世界に興味を持ち始めた子ハムたちが巣穴から外の様子をうかがうシーンや、安全確認後に巣穴から次から次に出てくるシーン、危険を察知して巣穴に一斉に逃げ込むシーンは、それはもう自然界そのもので圧巻です。是非体験してください。

9. 《出産前の餌の量》

子育て前は特に十分な量を与えてください。ウサギの母親は、環境が良くて子供たちが育つための食料が十分にあると感じれば、多くの子を出産する傾向にあるし、環境が悪く食料が乏しいと感じれば出産しなかったり少数出産しても我が子を食べてしまう場合もあります。ハムスターの母親にも同じようなことが観察できます。『地下型の巣箱』で生活するハムスターも自然界のハムスターと同じように食料を大量に溜め込む場合があります。母ハムスターの場合は、育児中に大量に食べる自分の食

料と、産まれて来る子供が乳離れ後に食べる食料を、巣の外に探しに行く危険を冒さなくても済むように、あらかじめ大量に貯蔵する習性がありますので、出産前の母ハムスターには、上質の食料をほしがるだけ十分な量を与えてください。

10. ≪観察=透明な観察板と遮光板≫ハムスターが中にいるときは

『透明な観察板』を絶対に開けないでください。

『地下型の巣箱』はハムスターの巣の中の生活を、透明な観察板越しに何時でも自由に観察することができます。観察は、ハムスターを理解するにも、健康チェックをするうえでもとても重要なことです。この『透明な観察板』の仕組みは、ハムスターは巣の中に光が入ってくるだけなら、敵の侵入の脅威とは感じない習性があることを上手く利用した構造と観察方法です。

ここで、『地下型の巣箱』の中の『明かるさ』についてすこし触れます。不思議なことにハムスターは真っ暗にしておいた『地下型の巣箱』の中に光が入っても怖がりません。実験と観察の結果、地下の真っ暗な部屋で耳（音）と鼻（臭い）とひげ（体毛）を使って不自由なく生活し子育てまでしているハムスターにとって、敵は振動やにおいや空気の動きによって感じるのであって、明かりは敵を知らせる危険信号では無いということが分かりました。『地下型の巣箱』はこの習性を利用して、『透明な観察板』越しに、巣作りの様子・巣の中の生活・子育てや授乳の様子をハムスターを怖がらせることなく、いつでも自由に観察できる『透明な観察板』の構造を持っています。

ハムスターは、光が入っても危険なことは何も起こらない、ということをしっかりと学習し手くれます。だから、『透明な観察板』越しに覗いていても平気なのです。しかし、ハムスターは巣箱が動いたりさがさが音がしたり、巣の中の空気が動くことに敏感に反応します。巣を動かさず、音を立てず、そっと観察するのが、マナーです。

なお、暗くすることでより安心しますので観察の時以外は、新聞紙・厚紙・布・板などを『遮光板』として『透明な観察板』の上に載せて巣の中を暗くして地下の巣穴の環境を演出してあげてください。

『透明な観察板』はプラスチック製です。擦り傷が付くと透明性が損なわれますので、洗うときに擦り傷が付かないように、中性洗剤を使ってぬるま湯で手洗いしてください。

※ 『覗くと怖がる・警戒する』という質問をいただくことがあります。この場合、以下のことをご注意ください。

≪厳禁事項≫

ハムスターが中にいるときは『透明な観察板』を絶対に開けないでください。

●開けてしまうと、≪音がした後に入ると侵入されることがある≫ということを学習してしまいます。すると、音がただけでも侵入を警戒するようになってしまいます。巣の中に侵入されたことによって、ここは安全ではないと学習し『地下型の巣箱』そのものを嫌いになる場合があります。飼い主を侵入者としてしまい、信頼関係が壊れます。

●逆に、≪外でどんな音がしても、侵入されることが無い≫と学習すれば、『地下型の巣箱』の中に居る限りは安全だという安心感を持ちます。そのような信頼関係が確立すると、掃除機が唸っても、大

きな足音がしても、『地下型の巣箱』の自分の寝室で熟睡している姿が観察できます。

つまり、自分が中にいるときには『透明な観察板』は絶対に開かないことを学習させてあげてください。すると、母ハムスターが授乳中に覗かれても平気にしています。ハムスターはとても賢いので、学習することで飼い主を信頼します。

1 1. 《ハムスターのおシッコ》

ハムスターは清潔を好みます。ハムスターはもともと、巣穴の中の決まった場所（トイレ室）だけでおシッコをして、巣穴を清潔に維持する賢い習性と本能を持っています。巣穴中をおシッコだけにすれば自分の家に住めなくなってしまうのですから、巣穴を清潔に保つことはハムスターにとって当たり前のことなのです。『地下型の巣箱』はこの習性を利用して巣箱の中をハムスター自身に清潔に使用させる機能を持っています。ハムスターの臭いと誤解されているおシッコ臭さはハムスターの責任ではありません。飼育環境を良くしてあげれば改善します。

『地下型の巣箱』を『自分の家』と認識させることでトイレ問題が解決します。

ハムスターのおシッコの習性についてはホームページ <http://ham-ham-ham.com> の『ハムスターのトイレ』に詳しく解説してありますので参考にしてください。

1 2. 《トイレ室》と《野外トイレ》

《トイレ室》ハムスターはトイレ室が決まればそこでおシッコをしますので他の部屋をおシッコでむやみに汚すことはありません。木製の『地下型の巣箱』で清潔な生活をする為に、トイレ室を決めさせるのは寝室を決める以上に大切です。先の《『地下型の巣箱』について》で説明したトイレを使ってくれない場合は、下記の要領でハムスター自身にトイレ室を決めさせます。

ハムスターは『地下型の巣箱』を探検した後、ハムスター自身が寝室を決めて、次にトイレ室を決めます。おシッコをする部屋がほぼ決まったようなら、その部屋がトイレ室の第一候補になります。分り次第トイレ用の砂など、今までに使い慣れたものを入れてあげてトイレ室の完成です。それでもハムスターが別の部屋もトイレ室にしてしまう場合もあります。トイレ室が一つだけとは限りません。

なお、『地下型の巣箱』のなかにトイレ室を作るのは、ハムスターに備わっている本能と習性によるものです。トイレがいつまでも決まらないというのは、その本能と習性を阻むストレスがある場合です。そのストレスを除いて上げる必要があります。このときのストレスの例として①『地下型の巣箱』への飼い主の侵入。②近くにハムスターが居て常に気配を感じる。などがあります。

《野外トイレ》



野外トイレは今まで通りに必要です。ハムスターが巣の外でするオシッコは、トイレ用とマーキング用の二つです。このことは、ホームページの「ハムスターのオシッコ」に詳しく説明してあります。なお、ハムスターは頻繁に砂浴びをします。上記のトイレは砂浴び場を兼ねています。

13. 慣れるということとは？

せっかく飼い始めたハムスターですから、手のひらに載ったり、手のひらでおやつを食べたり、早く慣れて欲しいと思うのは飼い主の思いです。しかし、生活環境が悪く、逃げ込める場所も無く、ストレスがいっぱいの心理状態のところ、手を差し伸べられても、コミュニケーションを交わす余裕はハムスターにはありません。警戒心や恐怖のあまり、つい噛み付いてしまうことも有るでしょう。

安心して熟睡できる寝室や食料貯蔵など安全に生きる環境を整えてもらうことのほうがハムスターにとっては、大切です。習性に合った良い環境の中で生活するハムスターはリラックスします。

ハムスターはとても好奇心が強く、とても賢い動物です。生活環境が良くリラックスできて心に余裕が出来て始めて、ハムスターの方から飼い主に好奇心を持ってコミュニケーションを求めてきます。声を掛けると巣穴から顔を出し警戒しながら観察し『危険でない』『おやつをくれる』などを学習します。人のペースで急がず、ハムスターのペースを考えれば、良い信頼関係を築くことができます。

逃げ込める安全な巣穴があるという安心感があって、嫌なら巣穴から出なければ良いという選択肢が有るからこそ、呼べば『巣穴から出てくる』ことが、ハムスターの方からコミュニケーションを望んでいる心の証になります。

『地下型の巣箱』の製作：A32 アガチス (有)家具のくろす
A32 キリ 中島木箱工場

『地下型の巣箱』の販売：『地下型の巣箱』入澤

〒331-0061 さいたま市西区西遊馬1813-1 8-306

<http://ham-ham-ham.com> irisawa@jd6.so-net.ne.jp

2008春

14. 《よくある質問のページです》

メールで寄せられた質問・ホームページのBBSへの質問から重要な項目を列記いたしました、皆様のお役に立てるかもしれません。

- Q1 『地下型の巣箱』を上手に使ってこない。
- Q2 別荘・遊び場として与えたら、『地下型の巣箱』の中のあちこちにオシッコをする。
- Q3 床材は何が良いですか？
- Q4 掃除はどうしますか？
- Q5 毎日与える餌の量はどのくらいですか
- Q6 食糧貯蔵室に溜め込んだ食べ物はどうしますか？
- Q7 貯蔵室の食べ物に糞が混ざっています。
- Q8 噛みますか？
- Q9 二匹飼う場合の注意は？

【失敗の例】

Q1 『地下型の巣箱』を上手に使ってこない。

『地下型の巣箱』を上手に使ってこない。どうしたら良いですか？

《答え》

- ① ハムスターが『地下型の巣箱』の中に居る時に『透明な観察板』を開ける事がある。
- ② 『地下型の巣箱』のトイレ室以外に、床材を撒きつめるなど、物を入れてあげる。
- ③ 寝室を頻繁に掃除している。

この何れかひとつでもやっていると、いつになっても、ハムスターは『地下型の巣箱』を『自分の聖域』と認識しない場合があります。侵入行為＝介入・干渉は、ハムスターに『地下型の巣箱』の中は決して安全ではない、と学ばせてしまうかもしれません。すると、ハムスターは『地下型の巣箱』を『自分の家と認識』しなくなります。特に①は厳禁事項です。これが失敗の一番の原因です。

ハムスターは学習能力がとても高いので、『地下型の巣箱』の中が誰も侵入してこない場所であることを経験し、学習すれば、そこを『自分の聖域』と認識します。

『自分の聖域』となった『地下型の巣箱』の中で、ハムスターは安心してとてもリラックスします。これが『地下型の巣箱』の最大の効果です。

『地下型の巣箱』は地面に掘った巣穴を構造的にまねた物です。巣穴にはハムスターが自分の好きなものを自分で運び込みます。飼い主はトイレ室以外には物を入れないで、『地下型の巣箱』そのままを与えることが基本です。

《解説》

ハムスターが生活している巣穴は真っ暗です。飼い主が好意で入れてあげる物がハムスターにとっては異物であり、自分以外の臭いや敵を感じさせる場合があります。自然界では巣の中は自分だけの

世界であり、侵入するものは敵なのです。特に嗅覚が鋭いハムスターにとって、真っ暗な巣穴の中を熟知して生活しているのに、何かに変化していれば警戒するのは当たり前です。入っているものが嫌いなものであれば『地下型の巣箱』も嫌いになってしまうかもしれません。

『地下型の巣箱』はハムスターに心理的に100%の聖域を提供するものです。だからこそストレスが無く安心して熟睡できるし、ハムスター本来の生活できるのです。これが『地下型の巣箱』の特長であり最大の効果です。

『地下型の巣箱』の材質は、ハムスターが嫌がらずに好んで入る『桐』や『アガチス』を使用しています。トイレの設置以外は『地下型の巣箱』をそのまま与えることが基本です。ハムスターは自分の家を、自分で棲みやすくするとともに優れた家作りの本能と習性を持っています。室内、特に寝室は、ハムスター自身が外から、自分が気に入った材料を持ち込んで上手に作ります。

飼い主の役目は、ハムスターが好きなものを選ぶように、色々な種類の巣の材料を【巣の外に】用意してあげることです。若いハムスターの巣作りは最初はへたですが次第に上手に作るようになります。トイレとトイレの掃除以外の手出しは無用です。

そのかわり、良く慣れてきたら、**良い信頼関係が築かれたら、何をしても、何を入れてあげても気にしないハムスターもいます。**

【失敗の例】

Q2 別荘・遊び場として与えたら、『地下型の巣箱』の中のあちこちにオシッコをする。

《答え》

『地下型の巣箱』は『家』として使用してください。『地下型の巣箱』を別荘として与えたり、遊び場として与えると、ハムスターは『地下型の巣箱』を『自分の家と認識』しません。『自分の家』以外には縄張りを主張する対象になりますから、縄張り巡回の度にアッチコッチにマーキング（オシッコ）をします。ハムスターは侵入者を、時には殺してしまうこともあるほどに縄張り意識が非常に強い動物ですので、『自分の家』以外の場所には侵入警告のために盛んにマーキングをします。これはハムスターの正常な習性です。

設置に失敗してアッチコッチをオシッコで汚してしまった場合には、熱湯をかけるなど、きれいに洗って最初からやりなおせば良いです。ハムスターのオシッコの習性については、ホームページの『ハムスターのオシッコ』の項に詳しく説明していますのでぜひご一読をお願いいたします。

【失敗の例】

Q3 床材は何が良いですか？

《答え》

『地下型の巣箱』の中に床材は必要ありません。『地下型の巣箱』は地下の巣穴を真似た構造にしてあり『桐』や『アガチス』などハムスターに安全と思われる床材を使用しています。毎日歩く床も同様ですのでそのまま使用してください。牛乳パックの手作りの場合も同様です。ハムスターは乾燥地帯に棲んでいる動物で、チップの世界はありません。第一、ハムスターは巣の中に欲しい物があれば自分で運び入れる知恵を持っています。

巣の中で寝てばかりいたら商品として見えないなどの理由で、ペット屋さんの多くはチップの床材を使って展示しています。ハムスターが喜んで『もぐる』、などと効果が表現されていますが、隠れるところを与えていないから『もぐり・隠れている』にすぎません。自分の寝室を持っているハムスターにチップの中にもぐる動作はありません。このことは実験から分かります。ハムスターにはチップの中にもぐって生活する習性など無いのです。ハムスターはカブトムシの幼虫とは違います。

ハムスターはチップにオシッコをします。ペット屋さんのように頻繁に入れ替えて常に清潔を保てれば良いのですが、入れ替えを怠れば湿り気の弊害で健康を害す場合もあります。

Q4 掃除はどうしますか？

《答え》

掃除は、ハムスターの外出時にします。ハムスターが『地下型の巣箱』を『自分の家』と十分に認識したあと、少なくとも一週間は環境を変えないでください。『地下型の巣箱』に十分に慣れてきたら全体を水洗いしても大丈夫です。十分に乾燥させてから与えてください。

《ご注意》掃除はハムスターの外出中にするのが鉄則です。中にいるときに『透明な観察板』を絶対に開けないでください。侵入されたと感じて『地下型の巣箱』そのものを危険な場所であると学習し、『地下型の巣箱』の中でリラックスできなくなってしまう場合があります。

Q5 毎日与える餌の量はどのくらいですか

《答え》

『地下型の巣箱』で生活しているハムスターには、新鮮な食べ物をバランス良くたくさん与えて良いです。ハムスターは必要なものを必要なだけ食べます。食べない分は盛んに貯蔵します。

肥満を心配して、与える餌の量を決めているというホームページをたくさん見かけます。でも、自然界に肥満のハムスターなど居ないことを思い出しましょう。ストレスが無く健康に育ったハムスターには『食べ過ぎない本能と習性』がちゃんと備わります。『地下型の巣箱』で生活するハムスターには食料を豊富に与えても肥満になりません。『食べ過ぎない本能と習性』が正しく働くからだと思います。私のハムスターは、ひまわりの種などの食料を山盛りいっぱい貯蔵しますが、これまでに肥満は一匹もいません。ただし、回し車があるなど十分な運動が出来る環境下にあることが条件です。

ハムスターが肥満になるというのは、飼育環境が合わないなどのストレスによって『食べ過ぎない本能と習性』が正しく働かなくなっているのではないかと推察します。

Q6 食糧貯蔵室に溜め込んだ食べ物はどうしますか？

《答え》

原則は【そのままにしておく】です。ただし、生ものとか古くなったものは取り除いてあげてください。貯蔵室を空っぽにしないで一定の量を貯蔵させてあげてください。溜め込むのがハムスターの正しい本能と習性です。ハムスターは食べ物を頬袋に詰め込んで運び、食糧貯蔵室に沢山溜め込みます。時にはびっくりするほど多量に溜め込みます。ひまわりの種を80グラム隠し置いた実験では、見つけて夜明け前までにせっせと貯蔵室に運び終えた例があります。これは食料の無い厳しい季節を生き抜くための本能と習性が正しく備わっている証拠です。貯蔵物の量はハムスターにとって安心の

尺度になります。沢山溜まればとても安心です。これは人間も同じですね。

特に、母ハムスターは出産に備える時には大量に溜め込みます。これは、巣穴の外に出ないで育児に専念するための食料と、子供たちの離乳後の食料のためです。この時期は欲しがるだけあげても大丈夫です。育児中の母ハムスターが巣の外にほとんど外に出ないのは、敵に襲われて育児ができなくなる危険を冒さないためではないかと推察しています。そのために母ハムスターは大量の食料を溜め込みます。

どうせ食べないからといってむやみに取り上げるのはストレスになります。

Q7 貯蔵室の食べ物に糞が混ざっています。

《答え》

ハムスターには糞食（ふんしょく）という不思議な習性があります。ハムスターの世界では自分の糞は食べ物の一種なのです。腸が長くないハムスターは食べたもののかなりの部分を未消化のまま排泄します。子供の糞は特に未消化成分を多く含みます。つまり、ハムスターのウンコには栄養がまだたっぷり残っているんです。ウンコを頬袋に詰め込んで運搬中のハム君を見たら皆さんはきっとびっくりするでしょうネ。ハムスターのウンコは、非常携帯食です。

Q8 噛みますか？

《答え》

正しく飼育すればハムスターは噛みません。自然界でハムスターが相手を噛むのは、敵（捕食者）に襲われた時の最後の抵抗の時です。敵に襲われればまず食べられてしまうのですから噛むのは最期のもなしい抵抗になってしまいます、、、。つまり、ハムスターは自分の命に関わるようなことが起きなければ噛みません。自分の方から噛みつくために相手に襲い掛かるような、牙のある動物の噛む習性はありません。

ハムスターは縄張りを強く主張します。縄張り争いになっても弱い方が逃げますから命がけの戦いにはなりません、二匹を一つのケージに入れておくと弱い方が噛み殺されてしまうことがあります、これは逃げ場が無いので最後の最後まで戦わざるを得ない結果でしょう。

ペットのハムスターが噛むのは、よほどのストレス状態にあると考えるべきです。寝室が無くて安眠できない環境のハムスターは強いストレスに耐えています。このようなハムスターをいきなり後ろから掴んだら、びっくりして咄嗟に噛むかも知れません。

『地下型の巣箱』で安眠してストレスなく育ったハムスターは好奇心がとても強くなりますので、飼い主の臭いや音（声）を覚えます。声を掛けながら、前や横からすくい取るように掴んであげれば、驚いて噛むことはありません。呼べば『地下型の巣箱』から出て来て、自分から手のひらに乗ってくるハムスターが飼い主を噛むことはありません。

Q9 二匹飼う場合の注意は？

- ① ハムスターに過度なストレスを与えます。
- ② 人に馴れるということに関心を持つ余裕が無くなります。

ハムスターの大人は、とても広い縄張りを主張して一匹だけで生活しています。二匹になるのは交

尾する時だけです。それも短時間です。

したがって、同じ空間にケージを二つ置くと、臭いと音などの気配から縄張りに侵入されていることをお互い感じて、自分のケージ内に盛んにマーキングのオシッコをします。

強い方は追い払いたくて常にストレスを感じます。弱い方は遠くに逃げたいプレッシャーとストレスを感じます。このことが優先されてしまうために、人に馴れるということに関心を回す余裕がなくなります。

二匹飼う場合は、音だけでも聞こえないように、部屋を別にしてあげると落ち着く場合があります。雄と雌で飼う場合は、メスの発情期のときに雄がケージを出たがります。

ハムスターは縄張り意識がとても強くて、広い範囲を一匹で専有するのが大好きな、習性と本能を持った動物であることを覚えておきましょう。(ケージを重ねて飼育するというのは、プロにお任せしましょう)

その他、質問がありましたら、ご遠慮なく、メールまたはホームページのBBSをご利用ください。
ホームページは『』付きの『地下型の巣箱』で検索していただければ上位に出ます。

(※1)『ハムスターの習性に合わせた飼育方法』とは、

- ① 寝室を自分で作る本能・トイレ室でオシッコをして巣の中を清潔に保つ本能・食料を貯蔵して安心する本能など、ハムスターが持っている本能と習性を良く理解してあげること。
- ② その上で『地下型の巣箱』を使用して、ハムスターがこれらの本能と習性を自然に発揮できる、ストレスの無い飼育環境を整えてあげること。
- ③ そして、ストレスが無く心に余裕を持つことが出来るようになったハムスターと、コミュニケーションをとることです。

08.夏版